

## ◆巻頭言

[探究心](#)・・伊藤 信寿 523

## ◆総説

[脳卒中後の上肢麻痺に対する運動観察療法 \(AOT\) の有効性および作業療法への適用可能性](#)  
・・坂口 雄哉・他 525

## ◆原著論文

[脳卒中片麻痺上肢へのリーチングロボットを用いたリーチング訓練の上肢機能と日常生活使用への効果](#)・・木村 佳奈・他 537

[高齢者サロンにおけるポジティブ作業に根ざした実践の臨床有用性](#)  
—前後比較試験を通じた介入効果の予備的検討—・・・・・・・・・・・・・・・・清家 庸佑・他 548

[日本における発達障害児に対する学校適応支援を目的とした作業療法的手段](#)  
・・助川 文子・他 557

[橈骨遠位端骨折術後の自主練習量と治療成績の関連](#)  
—自主練習プログラムの有効性—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・櫻井 利康・他 568

[亜急性期での脳卒中後上肢麻痺に対するロボット療法と修正 CI 療法を組み合わせた治療の実践](#)  
～ケースシリーズ研究～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・庵本 直矢・他 579

## ◆実践報告

[介護保険領域における「リハビリテーションに関する達成動機尺度 \(SAMR\)」の臨床有用性](#)  
～訪問作業療法によるクライアントの目標達成を促す支援を通して～  
・・佐野 裕和・他 590

[回復期リハビリテーション病棟での心理的アプローチ](#)  
—コラージュを用いた回想法の実践—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・岩澤 夕喜・他 597

[不器用さを呈する学習障害児への作業療法士による学校コンサルテーション](#)  
・・倉澤 茂樹・他 605

[小脳・脳幹梗塞後に重度球麻痺、中枢性低換気を呈した患者に対する包括的リハビリテーションの訓練経過](#)  
～摂食嚥下リハビリテーションを中心に～・・・・・・・・・・・・・・・・青木 佑介・他 616

[意味性認知症者に対する通所リハビリテーションにおける家事支援](#)  
—絵とりハビリテーション会議を用いた作業療法により主婦の役割を維持した一例—  
・・加茂永梨佳・他 623

[衝動的な暴力から措置入院となった統合失調症と自閉スペクトラム症を呈する困難事例に対する急性期作業療法](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・南 庄一郎 630

[発達障害のある受刑者の「思い」に寄り添った刑務所での作業療法](#)・・・・・・・・足立 一・他 637

[高位脛骨骨切り術後に対処リストを用いた作業療法実践により疼痛や不安、破局的思考に改善を認めた事例](#)・・原 竜生・他 644

## 編集後記

▶本誌（本号も）に掲載されている論文を概観すると、特に昨今は、作業療法士による研究成果を元に、多くの作業療法手段（評価や実践）が開発されてきたことが分かる。これまでアイデンティティに悩み、核を問い続けてきた多くの先輩たちが敷いたレールがあってこそこの仕事であり、成果であろう。翻って、作業療法教育は作業療法手段の研究、開発に、どう貢献しているのだろうかと不安に思うことがある。現状のカリキュラムは作業療法のアイデアを創発するための、まさしく核心をついた変わる必要のないものなのか。あるいは、教育が臨床や研究に置いていかれてしまっているのか。前者であるために、将来の臨床家、研究者には大切な基本を丁寧に伝えていくしかない。 (T・O)

▶毎号の『作業療法』を手にする時の私の一番の楽しみは、論文著者が何を「作業療法の効果」として捉えているのかを学ぶことである。本号では、「上肢の運動機能（FMA, PRWE, 可動域, 握力）」、「生活での麻痺側上肢の使用度（MAL）」、「主観的幸福感（PGC）」など、心身機能から活動・参加まで、幅広い視点で効果検討がなされている。本誌の本分は、「作業療法の学術的発展」であり、臨床に役立てられてこそ役割を全うしたといえる。読者の皆さまが日々クライアントと向き合う中で、本誌が「作業療法の効果」を再考するきっかけとなり、介入内容を検討する上でのヒントとなっていれば幸いである。 (K・T)